



松柏中学校アーカイブ通信 第26号 2024年11月18日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

校訓の謎に迫る (その1)

校歌の次は校訓です。(校章については通信13号で紹介済) そもそも、この校訓が、いつ、誰の手によって定められたのか全く分かりません。開校以来の沿革史等を見ても、その記録がありません。御存じの方がおられましたら、松柏中学校まで連絡をお願いします。



【体育館前面左に掲げられている三木氏揮毫による校訓】

先週、私の教え子(23歳・JR 四国勤務)が本校に来た際、こんな質問を受けました。「先生、あの校訓やけれど、『外務大臣 三木武夫』と書かれとるの?」「あつ、外務大臣と書かれとるけど、その後に総理大臣になった三木武夫よ。徳島県の人かな。」
松柏中学校に勤務して6年、通算8年目になりますが、このことは思い出しては忘れの連続でした。

そうです。調べなければと思った謎は「なぜ、松柏中の校訓の書を三木武夫氏が揮毫(きごう)したのか」です。文化祭や講演会等で本校の体育館を利用された方は多いと思います。体育館の全面左上に掲げられている大きな書ですが、なかなか気付きにくいです。校訓が書かれていることは分かっても、「外務大臣 三木武夫」の部分は、くずし字で書かれているし、時間が経過し、暗くなってしまったのか、読みづらいです。



【三木武夫氏】

そこでアーカイブ調査(深掘り調査)です。そもそもなぜ外務大臣なのかで入っていきました。三木武夫氏(1907~1988年)が外務大臣だった期間は1966年12月3日から1968年10月29日です。これでピンとききました。本校体育館の落成が1968年5月23日です。この書が大変巨大で、校舎の中には収まりきらない大きさです。おそらく、体育館の完成記念に贈られ、今の場所に設置されたのでしょう。それでは、松柏中と三木氏を結ぶ縁とは何でしょうか。

大きな手掛かりです。下の新聞記事は、1967年6月16日付けの八幡浜新聞からのものです。この大きさでは読みづらいですので、報道内容を説明します。

開校以来20年近くが経過した松柏中学校ですが、この当時、旧市内の中学校(愛宕・八代・松柏)で唯一体育館がありませんでした。ただ、小中学校の体育館整備は、八幡浜市だけでなく、県内のどの市町村も共通の要望事項でした。各校のPTA等が市町村に陳情し、県や国に働き掛けるといった仕組みです。

しかし、1967年度の小中学校体育館の建設に関して、国は愛媛県に計15校分しか認めないという枠を表明していました。八幡浜市は松柏中に加えて、青石中、舌田小の3校を県に要望していましたが、15のうち3は難しいというので、二つにするならば、どこを削るかなど、激しい議論が起こっていました。

この難題に対して、国に強く要望し、八幡浜市は3校全てが建設に向けて認可されるという結果になったのです。地元の発展のためにと、国に強く訴えたのが、衆議院議員の毛利松平(もうりまつへい)氏だったのです。毛利氏は西宇和郡三机の出身です。衆議院中選挙区制度時代、愛媛3区で選出された国会議員です。

ここまでの新聞報道の内容です。ちなみに毛利氏は自民党の三木派(当時)に所属していました。派閥のリーダーが三木氏でした。これが正解だと思います。本校体育館の完成時に掲げられた「外務大臣 三木武夫」の書でしたが、後に総理大臣になる(1974年)とは、当時の松中関係者は想像もしなかったことでしょう。



【1967年6月16日付け 八幡浜新聞】